

霧島市福山町福山。前身は牧之原高校で、今年で創立33年。校訓は「勉学・規律・貢献」。普通科・商業科合わせて140人。7年連続就職・進学率100%を達成している。



### 推しメン!!

#### 通学路の安全見守る

益山 博美さん(77)  
牧之原防犯パトロール

益山博美さんは、私たちが通学のために利用するバス停から、学校までを毎日交通安全指導をしてくださる地域のボランティアの一人だ。週に1度福山高校前を担当する。

地域の子どものためにボランティアをしてくださる理由を聞くと、「少しでも交通事故を減らしたいのと、学生があいさつしてくれると私たちもうれしくなったりやりのあるからです」と答えてくれた。また、「福山高校の先生方も学校のために盛り上げてくれているので、私たちがそれを見て頑張らないといけないと思います。この小さな積み重ねが地域のために少しでも支えになれていると思

うからです」とうれしそうに話してくれた。

福山高校については「昔と違って人数は減ってしまいましたが、福山高校の先生や生徒たちがたくさんイベントやボランティアを通して地域を盛り上げてくれ、国分や鹿屋の人もそれを見に来てくれるので、とてもうれしいです」と答えてくださった。

このインタビューを通して、福山高校は多くの方々を支えられ、また逆に必要とされていることに気付くことができた。これからは、地域の期待に応えられるように頑張っていかなければならない。

(普通科2年・唐鎌宗寛、斧駿介)



特別養護老人ホーム「おおすみ竹山園」で、介護補助やベッドメイクをする生徒たち

## 福祉充実へ独自学習

### 地域性踏まえた「夢プラン」

福山高校には独自の取り組みがある。夢プランという学習だ。今では全国的に実施されているが、本校では2000(平成12)年度から試行的に始めた。

準備段階では、1999年度の2学期から職員、学年、生徒会が、推進委員会などを数回開き議論を重ねた。国際理解・環境・福祉などのテーマが候補にあがり、「学校の特徴を出すものとして、地域性を踏まえた『福祉』に取り組みよう」ということになった。主な理由は二つである。

少子・高齢化が進む21世紀は「福祉」の充実が最優先課題といわれる。2000年度から介護保険制度も導入されたが、高い福祉には高い負担がセットになっており、豊かな老後生活の保障にはほど遠い現状がある。これからの社会や地域の大きな課題である障がい者福祉や高齢者福祉に関する学習をすることにより、介護のあり方や社会保



学校では障がい者福祉についての事前講話があった

障全般に関する知識と理解を深め、将来豊かな福祉社会を支える力をつけたというのが一つの理由である。

次に本校のある霧島市福山は、県立牧之原養護学校をはじめオレシジ学園、福山学園など数多くの障がい者施設や高齢者施設を有しており、「重症心身障がい児(者)愛護の町」を宣言している。福祉施設や高齢者施設での体験活動を通して町の福祉への姿勢に学び、人権尊重・思いやり・自発的奉仕の心など豊かな人間性を培い、自己理解を深め、自分の課題を発見し、社会の一員として主体的に行動できる人間を目指すというのがもう一つの理由だ。

以上の理由から「21世紀の福祉を考える」福山からの発信」というテーマを掲げ、1学年では「障がい者福祉」、2学年では「高齢者福祉」という学年ごとの学習テーマを設定した。また、本年度からは、それまでの取り組みを踏まえつつ2学年時のテーマを「働くことの意味と自己発見」と変更し、インターンシップ学習が導入された。

私たちは夢プランを通して、町全体に社会福祉が根付いていることや、障がい者のそばで支える支援員や福祉士の仕事の大変さ、職員減少などによる仕事の増大などの課題を知って貴重な経験をすることができた。

(商業科2年・神ノ門佳音、遠矢七々)

### The student press

#### 第3回ミニブリアバトル 教員と生徒6人が熱戦



おすすめの本をアピールする参加者

9月27日放課後、福山高校図書室で「第3回ミニブリアバトル」が開催された。ブリアバトルとは、自分の好きな本、面白かった本、おすすめしたい本を制限時間いっぱいアピールするイベント。公式ルールは発表5分、質問タイム3分だが、福山高校オリジナルルールは、発表3分、質問タイム1分だ。発表終了後、全員の発表を聞いた人のみ投票することができ、多数決によってチャンプ本が決定する。

出場者は普通科3年岡本和也さん(17)、竹下雄太さん(17)、商業科3年永野優太さん(17)、普通科1年市川敬広さん(15)、そして数学教諭の寺尾博信先生(33)と理科教諭の中島亮先生

(36)だった。全体を通してのチャンプ本は、中島先生おすすめ「そして誰もいなくなった」(アガサ・クリスティ著)。生徒部門でのチャンプ本は、市川さんおすすめの「キノの旅X」(時雨沢恵一著)だった。チャンプ本に選出された中島先生は「2連覇はとてうれしいが、ちょっと大人げなかったかなと思います(笑)。でも、とても面白い本なので、これを機会にもっと多くの人に読んでもらいたい」と話していた。

今後のブリアバトルでは、どんな素敵な本との出会いがあるのか。期待が高まる。

(普通科2年・中元ひかる)

### 私たちが取材しました



学校の歴史を知ることができていい経験になった(神ノ門) 夢プランが貴重な経験だと思った(遠矢) 福山高校の魅力が再発見できた(中元) 初めて新聞を作ってみて、とても楽しかった(花森) きちゃんと取り組めてよかった(唐鎌) 初めて新聞を作った(斧)

### チェック

◇学校の特色ある行事、いち押し制度や施設を紹介します。

#### 自然楽しみ地域貢献

##### 「花文字清掃」全校で参加

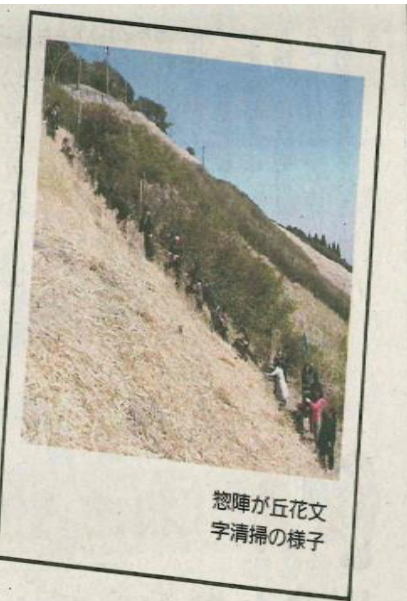
福山高校では毎年2月に「ふっぎやまぼっけもん会」(牧之原)が主催する惣障が丘花文字清掃奉仕作業に、全校生徒で参加している。福山町牧之原にある惣障が丘は、頂上付近の展望台と牧之原のシンボルである「フクヤマ」の花文字そして、薩摩の島津と大隅の肝付との合戦で、島津が本陣を置いた地として知られている。生徒たちは学校から惣障が丘の麓付近まで歩き、そこから頂上を目指して遊歩道を登る。途中息を切らしながら登っていくが

頂上付近にたどり着くと、そこから見る町内の絶景に感銘を受ける。

花文字清掃では、「フクヤマ」の花文字を作っているツツジの木を地域の方々が剪定した後、枯れ枝を片付けるのが生徒たちの仕事だ。急斜面で枯れ枝を手に歩き回るのは、かなりの重労働だ。枯れたカヤの積み重なった所に足を下ろす際には、油断すると足を滑らせてしまうとても大変な作業である。生徒たちは地域の方々と協力して楽しそうに、一生懸命作業をする。

自然と触れあうだけではなく、地域の方と交流することで地域貢献と奉仕の精神を養う、とても貴重な体験となっている。

(商業科1年・花森楓)



惣障が丘花文字清掃の様子